

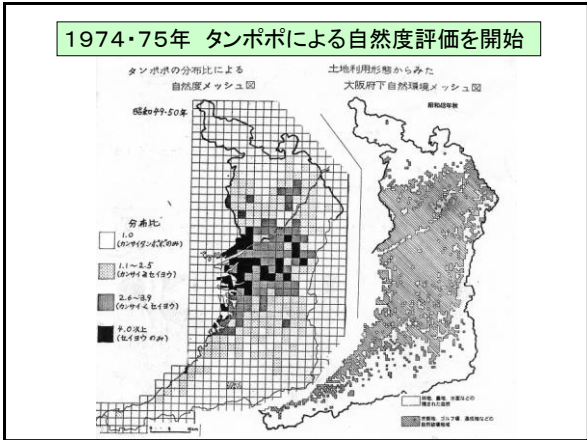
お庭の生きもの調査



いきものみつけシンポジウム 20101023

『お庭の生きもの調査』の結果報告と庭から始める生物多様性の保全活動

NPO法人生態教育センター
理事長 小河原孝生




1981年一民間第1号
ウトナイ湖サンクチュアリ

生息環境の保全
環境教育の展開



1983年一第2号福島市小島の森



1986年一横浜自然の観察の森

全国10カ所以上を整備



1996年札幌ドーム生態環境計画



1995年米子水鳥公園



1991年(株)生態計画研究所設立



1995年ぐんま昆虫の森基本計画

1997年丸池の里ワークショップ

2002年NPO法人生態教育センター設立



2005年愛地球博・地球市民村「お庭のエコロジー館」出展



お庭の生きもの調査



沖縄から北海道まで906名、のべ5633件の報告が届きました。

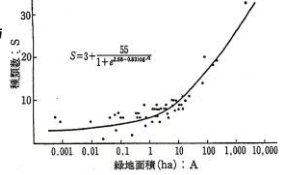


都市圏の緑は、そもそもの規模が小さく、道路や構造物等によって地表の連続性が分断され、**地這い性の動物の移動性が阻害されている**ことや、表土の攪乱によって、**種の供給ポテンシャルが低下**しており、その生物多様性は限定されたものとなっている。

●空間規模(パッチサイズ)の捉え方

図に示したように、緑地面積と種数の関係には有意な相関が認められており、鳥類の生息環境を保全する場合、多様性と現存量はその空間規模に負うところが大きい。

これは、島嶼生態学の理論に基づくものであり、0.3ha以上から樹林性の鳥類が生息を始め、30ha以上で顕著な効果を表わしている。言い替えると、30ha以下では、**アイランド(孤立した島)としての緑地の独立性が小さい**というのである。



緑地面積と繁殖期に生息している野鳥の種類数との関係(樋口他, 1982)

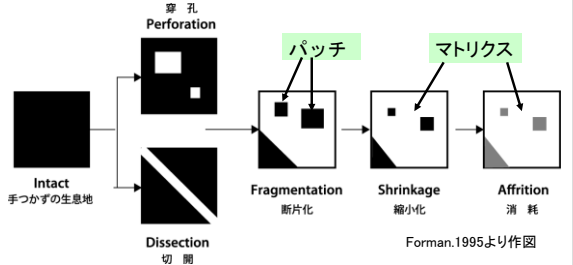
- 「アイランド型」の種 / 均質な空間に定着して生息空間の規模(パッチサイズ)が影響
- 「モザイク型」の種 / 複数タイプの生態環境を利用 異質な空間のモザイク(規模と配置) 空間の連結性(ネットワーク)が影響
- 「ドット型」の種 / 点在する(マトリクスの緑)を利用 緑の濃度(緑被率)と質が影響



都市生態系 = 「ドット型」の種
 農村生態系 = 「モザイク型」の種
 自然生態系 = 「アイランド型」の種が
 主に対応する。



生息地悪化の4つのプロセスと、マトリクスの緑の重要性



マトリクス / Matrix = 基質、細胞間質 (生物学)

緑地が断片化・縮小化している市街地では、マトリクスの緑(庭や屋上、街路樹等)の質と量が、その生物多様性を支えている。

1. 都市域では生息地の改善のために、マトリクス(庭)の緑が重要です。

今後、日本の人口の80%が首都圏、または地方の中核都市に集中すると云われています。つまりほとんどの日本人は、生息地が島のように断片化し、縮小化してしまっている土地に暮らすことになります。その都市域に残っている小さな島のような生息地の生物多様性は、周囲の環境(庭や街路樹などマトリクスの緑)の多様性に依存しているのです。

2. 庭は、持続可能な「定点調査地」として有効です。

身近な生きものの生息地である庭の生物調査は、専門家の援助とコーディネートがあれば、**定点のモニタリング・サイト**として、誰もが日常的に参加することが可能だと考えます。イギリスのBTO(英国鳥類学協会)では、既に80年以上にわたる**定量的な長期モニタリング**を成功させています。

3. 誰もが、自分の庭から生物多様性の保全活動を始められます

重要なのは、「**私たちの家の庭は、小さなベランダから大きな庭まで、様々な形で生物多様性に影響を与えている**」ということです。私たちの庭が、生物の多様性をより高める機能を持っているならば、全体としての街や都市が生態系に大きな恩恵をもたらす事ができるのではないのでしょうか。

お庭の生きもの調査では、少なくとも**470種**の生きものが見つかりました。



参加者のメリットは..

- (1) 生物多様性の保全に貢献できること
- (2) 野生生物と共に暮らす楽しみがあること
- (3) 身近な生物の営みから、多くの事を学べること

庭から始まる生物多様性...すべての庭は地球の生きもの達とつながっています!



『お庭の生きもの調査』へぜひご参加ください!

ご静聴いただきありがとうございます。

- 「お庭の生きもの調査」は、今後も続いています。ご興味のある方は、ぜひ調査への参加をご検討ください。
 - 第1回調査の報告書を年内に作成し、第1回調査参加者、および次回調査からの参加希望の方に配布する予定です。
 - 冬の時期に見られる鳥類を対象とした第2回調査を、平成23年1月から開始予定です。

■お問い合わせ、参加申込みは...

【主催】



N P O 法人
生態教育センター

<http://www.wildlife.ne.jp/>

〒189-0013
東京都東村山市東町2-28-5 小河原ビル3F
TEL : 042-390-0032 FAX : 042-390-1237
e-mail : ikimono@wildlife.ne.jp